**があるものと再算定し値上げを回避していますが、藤枝市は国策通りに値上げすると。これは前述の市長答弁と矛盾しています。保護者の方と連携をとり、再算定実施に向けて更に前進をしていきたいと思います。**

**人口減が叫ばれる中で、多子世帯を作り上げていく政策が必要です。**

**市長は「多子世帯は少子化解消に大きな貢献をしているが、保護者の経済的負担が大きいことも承知している」と答え、実務を担当する部長は「どういう支援策があるか研究していきたい」と踏み込んで答弁をしました。**

**一方で、2年前に廃止された年少扶養控除により、来年度から多子世帯ほど保育料が値上げになる問題（これまでより月額3万円以上も値上げになるケースも）があります。国立市などは扶養控除**

年少扶養控除廃止による保育料値上げには背を向ける

**市内に住む5人の子供を持つある女性からメールを頂きました。市は「子育てするなら藤枝」と言っているが、その実感を何ら得られないという事です。**

**実際、お話を伺いに。経済的な負担が大変なのに、その支援策が何もない。いっそ離婚して母子家庭になれば支援が受けられるのでは…と相当深刻でした。**

総合的な子育て政策を進める中で、多子世帯に対する支援を研究する（市答弁）

**市民の声に寄り添い、値下げを行えるのではないかと問いましたが、市は「国保会計の基金は枯渇しており**（図③参照）**赤字補てんは特別の措置」として背を向けました。しかし既に一般会計の基金は80億にまで膨れ上がっており**（図④参照）**これを活用する時に来ている状況です。今後どう活用するかの方向も示されていません。これに対しては、国保に使うとはしなかったものの、来年度の当初予算議会（来年2月）で方向性を示すと答弁がありました。**

**会計の下で保険税は高くなりがちです。**

**ところが、市の国保会計を経年的に調べてみると、ほとんどが黒字決算**（図①参照）**後期高齢者制度によりその分が別会計になったことが大きな要因ですが、赤字で値上げせざるを得ないという状況ではありません。**

**藤枝市は、独立採算の枠を超えて一般会計から国保会計へ特別の赤字補てんを毎年予算化していますが、それが不要となり決算で元に戻すほどの状況**（図②参照）**です。**

多子世帯に対し、実効性のある補助制度を

**9月議会、一般質問より**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  | **平成24年度** | **平成25年度** | **平成26年度** |
|  | **国保会計収入** | **140億1315万** | **146億4986万** | **150億1717万** |
|  | **国保会計支出** | **139億924万** | **146億496万** | **149億155万** |
|  | **差額（黒字分）** | **1億391万** | **4490万** | **1億1562万** |
|  | **赤字補填予算額** | **2億6695万** | **2億8470万** | **4億7599万** |
| **〃** | **赤字補填決算額** | **85万** | **86万** | **670万** |
|  | **国保基金残高** | **2億5159万** | **1億230万** | **17万** |
|  | **一般会計基金残高** | **52億7984万** | **68億3170万** | **79億6974万** |

高すぎて、払いたくても払えない

**年収400万で年46万の国保税！**

**市内各地から「高い！」と悲鳴が。**

**もともと国保は低所得者の加盟割合が高く、医療費もかかるので、独立**

**国保会計は年1億円以上の黒字決算**

**市議選の公約です。値下げをすべきではないか**

10月1日に番号が通知されます